

大井正道先生の御逝去を悼む

本学会元会員の大井正道大阪教育大学名誉教授が、5月13日午前9時に76歳で亡くなられた。大井先生は京都帝大卒業後、陸軍気象部を経て、戦後は旧師範から学芸大時代を経て昭和54年3月に定年退官されるまで大阪教育大学理学部地学教室の教壇に立たれ、多くの教育現場の人材を育てられた。

研究においては、戦後の厳しい時代に回転水槽実験あるいは電子計算機による数値計算を手がけ、偏西風蛇行あるいは温帯低気圧の発生における山岳や寒気団張出しの役割などを追求された。現在の大きな大学では想像のつかない数々の苦難の中を「孤軍奮闘」され、この傾向は気象集誌で拒否された論文が米国等の雑誌に掲載されるに及んで一層助長されたようである。山越え気流に関する水槽実験と計算については、Yih の成層流体力学の教科書に引用されている。

私事を記すのは誠に恐縮であるが、筆者は大井先生の最後の卒論指導学生であった。当時先生は既に体調を崩されていたが、「研究への情熱」・「大気現象の面白さ」・「泥縄的勉強の重要性と可能性」のような研究者として



立つために必要な事情、「地学に正解がないこと」・「自然を真摯に見ること」等の教育における大切なポイント、そして「準地衡風力学以外にも重要な研究対象が多々あること」・「大気力学にも自ら手を汚して実験や観測をすることが不可欠」などの専門的な事柄に至るまで、まるで父親のように教えて頂いた。今はただ先生の御冥福を祈ると共に、今後の一層の精進を御霊前にお誓いするのみである。

(京都大学超高層電波研究センター・山中大学)

『小氷期の気候』国際シンポジウム開催のお知らせ

International Symposium on the Little Ice Age Climate (LIAC)

主催：日本地理学会古気候復元研究グループ
後援：東京都立大学・East Anglia 大学(英国)気候研究施設・日本地理学会・日本気象学会・日本第四紀学会・日本雪氷学会・東京地学協会

開催期間：1991年(平成3年)9月25日(水)～28日(土)

開催場所：東京都立大学国際交流会館

(八王子市南大沢の新キャンパス内に建設)

集会の概要：近年、地球規模の温暖化等、気候変動に対する関心が国際的にも高まっていますが、本シンポジウムでは、16世紀から19世紀前半に至る『小氷期』とそれ以降の気候変動について、気候・気象学、地形・地質学、第四紀学、雪氷学、火山学、歴史学など、関連諸分野の研究者が集まり、研究発表・討論を通じてその実態と要因の解明をめざします。そのために、右記のサブテーマを設けます。

- ①小氷期の気候復元(16世紀～19世紀)：歴史資料の分析、花粉分析、年輪気候分析、氷床コア分析など
 - ②小氷期の気候と近年(20世紀)の気候変動との比較：全球平均気温の変動・季節変化などの比較
 - ③小氷期以降の気候変動の要因：人為的要因(二酸化炭素による温室効果等)と自然的要因(太陽活動、火山活動等)など
- ファースト・サーキュラーの請求と問い合わせは、下記宛をお願いします。

〒158 東京都世田谷区深沢 2-1-1

東京都立大学理学部地理学教室内

「小氷期の気候」国際シンポジウム事務局

三上 岳彦

電話：03-717-0111 内線 3621

FAX：03-725-8101